

校内教育支援センター(SSR)の現状と課題について

徳島市教育委員会

目的

在籍する学級での学習や集団での生活が困難となった児童生徒の学校内の居場所を確保し、不登校を未然に防止するとともに、不登校児童生徒の学校復帰を支援する。



現状

設置校 中学校 2校 (文科省モデル事業1校、徳島市支援員配置事業1校)
その他13校 (小8校、中5校) 自校努力で開設

文科省モデル事業(R.6~)	校内教育支援センター支援員配置事業(R.7~)
○加茂名中学校に、 <u>指導員1名</u> を配置 ※専任教員(県教委による配置)	○国府中学校に、 <u>支援員1名</u> を配置 ※会計年度任用職員(国補助事業を活用) ○資格…教員免許、公認心理師または臨床心理士
【利用状況 (R7.9月現在)】 ○利用者数 : 8人 (1年生 2人、2年生 5人、3年生 1人)	【利用状況 (R7.9月現在)】 ○利用者数 : 4人 (2年生 2人、3年生 2人)

成果

- 専任の支援員の配置により、一人一人のニーズに合わせた支援が可能となり、学校内で安心して学習したり、相談支援を受けたりしている。
- 長期休業中も利用できることにより、切れ目ない支援や生活リズムの確立につながった。
- 校内教育支援センターに登校できることで自信となり、教室復帰する生徒がみられた。(昨年度利用者)
- 徳島市適応指導推進施設「すだち学級」が拠点となり、専任支援員間の連携を図ることで、より良い支援体制の構築につながっている。

○モデル事業校での成果(R6)
利用者7人全員に好転がみられた
・(R7)在籍学級に復帰 1名
・(R7)校内教育支援センターに登校 4人
・高校進学 2名

課題

- 自校努力で設置している学校では、開級時間や曜日に制限があり、ニーズに合わせた運用が難しい。
- ニーズはあるが、教室や人員不足のため開設できていない学校がある。
- 教室環境の整備が不十分である。(学習スペース・リラックススペースの整備、エアコンの設置等)

今後の取組

- 校内教育支援センター支援員配置事業の拡充を図ることで、校内教育支援センターの設置促進と教室環境の整備を進める。
- 支援内容や教室環境の好事例を、市内小中学校へ展開していく。

校内教育支援センター (スペシャルサポートルーム等) の設置を促進

令和5年2月現在 全ての学校に設置している市町村 : 228
設置している学校がある市町村 : 1015

自分のクラスに入りづらい
児童生徒が、落ち着いた空
間の中で自分に合ったペー
スで学習・生活できる環境
を学校内に設置します。

自分のクラスとつな
ぎ、オンライン指導や
テスト等も受けられ、
その結果が成績に反
映されるようにします。

文科省「誰一人取り残さない学びの保障に向けた
不登校対策について(COCOLOプラン)」から引用